グローバル通信

2016/09/10

特集「ひ と 夏 の 経 験 －1－」

NO.36

この夏も、多くの生徒が海外に飛び立ったり、同世代の若者達と交流するプログラムに参加し、多くのことを学んできたと思います。２回に分けてその体験談を掲載します。なお、本校企画の「イギリス研修」「イングリッシュキャンプ」についてはホームページをご覧下さい。

仙台・南三陸で経験したかけがえのない6日間の体験

高等学校1年　岡田　博嵩

7/29～8/3までの６日間、私は日韓高校生交流キャンプに参加してきました。このキャンプの主な目的は、日本と韓国の高校生が一緒になってビジネスプランを考えるというもので、私のチームでは南三陸の観光振興・まちおこしについてのビジネスプランを考えた。このキャンプではビジネスを学ぶだけではなく，英語でのコミュニケーションを通じて韓国の高校生と交流ができ、また文化を知ることができたと思っている。

初日、これからキャンプが始まるんだというわくわくした気持ちで仙台駅のバスに乗った。南三陸のホテルに着くと、キャンプのホテルの部屋で韓国の学生と初対面した。簡単な自己紹介やお互いお菓子の交換などをしたが、少しぎこちなかった。その後オリエンテーションでメンターさん含め簡単な自己紹介をした。そして、チーム名を決めようということになり、皆で話し合った結果、「Puzzle」というチーム名にした。皆がバラバラのピースの中でこのチームで一つになろうという意味を込めてである。その後部屋ではお互い打ち解けて話していた。

2日目は最初に語り部バスという被災地、南三陸をバスで周るツアーというものに参加し、被災地を直接目で見てきた。初めて行ったが、テレビでは知らなかったような様々なことを学ぶことができた。その後、漁業体験ということで、船に乗り、養殖しているホタテなどを食べさせてもらった。美味しかった。午後は、経済現場体験ということで、南三陸「さんさん商店街」に行き、お昼を食べてから、屋台のお手伝いをした。最高気温35℃の日に、揚げ物を取り扱うお店でのボランティアは流石にきつく、立っているだけで精一杯だった。あまりお店には貢献できなかった。

2日目の夜にはゴールデンベルがあった。これはこのキャンプで一番楽しかった。韓国の学生と2人でチームを組んでクイズに挑むのだが、ペアの相手が偶然同じチームの韓国の女の子だった。その子とはまだあまり話せていなかったが、このゴールデンベルで一緒に戦い、仲良くなることができた。団結力では1番だった自信がある。惜しくも賞には届かなかったが、言語の壁を乗り越えてとても楽しむことができた

3日目は事業発表のための準備を一日中していた。行う事業も順調に決まり、着々と準備をしていた。そんな時、午後5時頃、韓国の学生とスタッフの方がこの事業には無理があるのではないかと日本人に詰め寄り、一瞬不安がよぎったが、メンターさんの通訳を通して日本人と韓国人お互い何をしているのかわかっていなかったことがわかり、安心した。しかし、最高のものを作ろうとしていると時間があまりに足りなく、ホテルのロビーで真っ暗な中、スマホのライトの上にペットボトルを置いてランタンのようにしてずっと準備をしていた。ここでも、日本人と韓国人の価値観の違いによってプレゼンで使うスライドについて対立が生まれていたが、なんとか間を取る形でお互い納得することができた。終わったのは朝の5時30分だった。外はすでに日の出の時間で明るくなっていた。かなりつらかった。

そして4日目、事業アイテム発表の時間が来た。みんなで円陣を組み、よし、やってやろうと

いう気持ちでプレゼンをした。結果、全体で2位タイにあたる、優秀賞をもらうことができた。その後、会場でみんなで喜びをわかちあい、一緒に写真を撮りまくったあの時の達成感、清々しさは今でも忘れない。その後はみんなでBBQと花火をした。日本と韓国の学生が一つになって遊ぶことができた気がしてとても楽しかった。その日の夜は、明日のタレントショーでの練習をしていて、部屋で朝3時ぐらいまでわいわい暴れながら遊んでいた。

5日目。終日プログラムが組まれている最後の日だ。午前中は松島を観光し、午後は仙台駅に行ってみんなでお土産を買った。その後夕食を食べ、みんなに一言づつメッセージを書いた。書きながらその時初めてもうキャンプが終わってしまうことに対してとても悲しくなった。その後タレントショーでの演技が完全に滑っていたが僕なりには後悔なくやりきった感じがした。最終日の夜はツインの部屋に10人で集まり、(かなり狭い笑)、いろいろ話したり、お菓子、カップラーメンを食べたり、トランプをして遊んだ。朝の3時半に力尽きたが。(笑)

最後のお別れの時は泣きそうになるのを必死にこらえながらにこにこ笑っていた。みんなで円陣を組んで掛け声をし、後悔の無いよう、言いたいことを全部言って別れた。

この6日間であまりに多くのことを学ぶことができた。韓国は、報道の影響もあって、正直以前はとても好きというわけではなかったが、実際に話してみて、印象は180度変わった。韓国人と日本人の価値観やさまざまな共通点、相違点がわかっていくにつれ、楽しかった。韓国の素晴らしい点もたくさん知ることができ、韓国がとても好きになった。確かに今は政治的な関係は良いとはいえないが、若者は仲良く慣れるんだ、ということを示せたと思う。チームのみんなとなかなか会えないのは辛いが、Team1のメンバーとは今もSNSで連絡を取り合っている。一生の友達をつくることができた。この関係をこれからも大切にしていきたいし、いつか絶対に再会したい。

最後に、主催してくださった日韓経済協会、また、影で支えてくれたJKSFFのOBの皆さん、そしてはもちろん、通訳をしてくれたメンターのJin Youngjiさん、Team1のみんなに感謝し、この経験をこれからの人生で何らかの形で活かしていきたい。そして、このキャンプが来年、再来年、もっともっと先まで続いていくと思うとわくわくする。

異国での新しい経験

高等学校１年　宮澤　友輝

7/24 から 8/19 まで、私はインドのデリーに留学に行っていました。AFS の短期プログラムに参加したのですが、今回の留学を実行するにあたって大きな助けとなったのは、「トビタテ留学 JAPAN」でした。これは文科省が民間企業の寄付金のもとに運営している事業で、私の場合は留学費用の３分の２を「トビタテ留学 JAPAN」の奨学金(返済不要)で賄うことができました。今年の２月に、「トビタテ留学 JAPAN」の高校生コースに応募し、書類選考・面接を経て５月に合格しました。その後６月に約 500 人の高校生と文科省で事前研修をし、今は世界各地に飛び立った高校生とインターネットで活動を公開し合う等、充実したプログラムとなっています。この制度を利用するにあたってはグローバル教育部の先生方にも大変お世話になり、大変感謝しています。

皆さんインドと聞いて、あまりいいイメージをもたれていないかもしれません。実際に私もインドといえばカレー位の印象しかありませんでした。それでもインドを選んだ理由は、欧米諸国を初めとした先進国と違って、より刺激的な体験ができると思ったからでした。

インドに入国した直後、「大気汚染がひどい」、「警備が緩そう」、「皆怖そう」等とネガティブなことしか浮かんできませんでした。しかしその懸念は日を重ねる毎に消えていきました。(大気汚染の懸念だけは日を重なる毎に増していきましたが。)インドの警備はデパートに入る時に身体検査・手荷物検査を行うほど厳しいものでしたが、インドの人たちは皆フレンドリーでした。

インドに行って最も衝撃的だったのは、貧富の差です。インドはカースト制度（憲法上は認めていない）が根強く残っていて、貧富の差が限りなく大きいです。路上で働く小学生、食べ物を求める小学生・・・。日本では絶対に見られない光景を目の当たりにし、言葉を失いました。他にも湿度を伴った暑さ、スパイスがふんだんに効いた料理、日本人と違った時間感覚、運転マナーの悪さ（たえずどこかでクラクションが鳴っています！）等、現地で経験した全てのことが驚きでした。

AFS のプログラムでは、平日 8 時から 14 時まで Amity International School という私立の小中高一貫校にホストブラザーと一緒に通っていました。英語（インドは公用語がヒンディー語等 26 個あり、補助公用語として英語がある）の研修の他、ヨガやインド料理の実習など他の日本人の AFS の留学生と一緒に学び、現地校の生徒にけん玉や折り紙を教えたりしました。学校で驚いたことは、時間感覚の緩さ。何故か 1 時間ずっと先生が来なかったりしたことが何度かあったりした他、大抵時間割と異なる内容を学習していました。

ホームステイ先では、毎日夕食にカレーが出ました。カレーは無論日本より辛かったうえに、他の食べ物もスパイスが効いていてとても辛いです。そしてスイーツはとにかく甘い！味覚の差が極端でした。勉強した後の休憩時間は、ホストブラザー（高 1）と TV ゲームをしたり、ホストブラザーとホストシスター（中 1）の友達と外で遊んだりして過ごしました。インドは親日国の一つで、私のホストファミリーは福島第一原発事故の時にヘリコプターから放水していたこと等、日本について予想以上に色々と知っていました。

今回の留学で、私は語学力だけではなく海外に対する自分の固定概念の解消、コミュニケーション能力等、様々な面で成長できたと思います。また、貧富の差等、先進国では見られない点も見ることができました。

留学先でアメリカやイギリス等の先進国を選ぶ人が大半ですが、私は発展途上国に留学に行くのも、日本では見られない一面を数多く見られるため貴重な経験ができると思います。この記事を読んで、「留学に行きたい！」、「発展途上国にも行ってみようかな。」等と感じていただけたら幸いです。

また、今回の留学・トビタテ留学 JAPAN について等質問がございましたら、遠慮なく４－７の宮澤までお越しください。

（編集者：「トビタテ JAPAN」は、手続き・資格共に細かな条件があります。この制度を使うことを考えている場合は、早めにグローバル教育部に相談して下さい。なお、宮澤君は、９月１７、１８日に開催される文化祭の「グローバル同好会」の企画の中で今回の留学についての発表を行います。）

アメリカの大学に行く　―２―

前号では、TOEFL や SAT といった、数値化された成績について紹介しました。本号では提出書類の中でもとても重要な「Activities」（課外活動歴）について説明します。

共通願書には中学３年生から高校３年生の出願時までの課外活動に関する受賞歴を記載する欄が１０項目あります。全部を埋める必要はありませんが、様々な分野で自己アピールできればそれに越したことはありません。

ではどのようなものを記載すれば良いのか以下に挙げておきます。

School Spirit（高校の組織活動、但し部活動は除く） 生徒会、委員会、クラスの活動
Athletics:JV/Varsity　**Athletics:Club**（運動部や運動クラブ） 運動部や運動クラブでの活動。レギュラーか、準レギュラーか。
Academic（アカデミック） 学問レベルを競う各種オリンピック（数学オリンピック、地学オリンピックなど）や模擬国連、エッセイコンテストなどの受賞歴。国際会議への参加。選考されての奨学金支給。サマースクールの参加なども可。必ずしも国際レベルでなくてもよい。入賞できずに参加しただけでもよい。
Science/Math（科学/数学） 科学や数学系のキャンプやプログラムへの参加、大学等での実験活動体験など。
Foreign Language（外国語） 外国語学習歴など。
Foreign Exchange（海外交流） 海外交流イベントの参加、運営など。
Debate/Speech ディベート大会、スピーチコンテストへの参加など。
Community Service（Volunteer）（Community 活動、ボランティア） 各種ボランティア活動。NPO 等での活動も可。
Carrier Oriented（キャリア志向） インターンの経験、NPO での活動歴など。
Journalism,Publication（ジャーナリズム、出版） 出版物等の記事作成、寄稿など。
Music Instrumental（音楽、楽器演奏）　**Music Vocal**（音楽、歌） 楽器の習い事、演奏歴、合唱歴など。
Art（美術） 美術に関する活動歴。学園祭のポスター作成も可。
Other Club,Activity（その他のクラブ、活動） 上記に属さない活動歴

このように活動内容は様々な分野に渡っていますが、早いうちから積極的にトライした方がよいでしょう。そして賞状類を保管しておくことは勿論ですが、活動歴をきちんと記載しておくことが大切です。活動歴を記録として残したものを「ポートフォーリオ」といいますが、これは日本の大学入試にも使われるようになってきました。日頃からコンピュータなどに残しておくことを勧めます。